

わたしたちの文化ではなく、
イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
一人の新しい人の生活をする

聖書：エペソ 4:20-21. マタイ 11:28-30. 14:19. ヨハネ 5:19, 30. 7:18. 10:30

I. わたしたちの生活の標準は、わたしたちの文化にしがっているのではなく、イエスにあるあの実際、すなわち、主イエスが地上にいた時に生かし出した実際にしたがっていなければなりません——エペソ 4:20-21：

- A. 主イエスが地上で生きた方法は、新しい人が今日生きるべき方法です——マタイ 11:28-30. ヨハネ 6:57. 4:34. 5:17, 19, 30. 6:38. 17:4。
- B. 「イエスにあるあの実際」（エペソ 4:21）とは、四福音書に記録されているような、イエスの生活の実際の状態を指しています。イエスは神の中で、神と共に、神のために、すべてのことを行なう生活をしました。神は彼の生活の中におられ、彼は神と一でした。
- C. イエスは常に神の義と聖に符合した方法で生活しました。イエスの生活の中で、あの実際の義と聖が常に展覧されました——エペソ 4:24：
 - 1. イエスの人の生活は、この実際にしがっていました。すなわち、神ご自身にしがっており、義と聖に満ちていました。
 - 2. この実際（栄光が現され、表現された神）の義と聖の中で、新しい人は創造されました。
- D. わたしたちはキリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります。キリストを学ぶことは、ただキリストの模範の中へと鑄込まれること、すなわちキリストのかたちと同形化されることです——20-21 節. ローマ 8:28-29. II ヨハネ 1 節. ヨハネ 4:23-24。
- E. 新しい人は団体の人として、イエスにあるあの実際にしがって、実際の生活をすべきです。それは、神を表現する生活です。
- F. わたしたちは思いの霊にしがって生活するなら、団体的な新しい人の日常生活、すなわちイエスにあるあの実際に符合する生活をするでしょう——エペソ 4:23。

エペソ 4:23　そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、

II. 一人の新しい人の生活は、イエスの生活と全く同じであるべきです。団体的な神・人としての一人の新しい人のために、わたしたちは神・人の生活をする必要があります——ピリピ 1:19-21 前半. 3:10. エペソ 4:20-21. 参照、I ヨハネ 4:17 とフットノート 5：

- A. キリストの人の生活は、人が神を生きて人性の美德の中で神の属性を表現することでした。彼の人性の美德は、神聖な属性で満たされ、ミングリングされ、浸透されていきました——ルカ 1:26-35. 7:11-17. 10:25-37. 19:1-10：
 - 1. 主イエスが地上におられた時、彼は人でしたが、神によって生きました——ヨハネ 6:57. 5:19, 30. 6:38. 8:28. 7:16-17。

2. 主イエスはあらゆることにおいて神を生き、神を表現しました。何であれ彼が行なったことは、彼の中で、また彼を通して神が行なったことでした——14:10。
 3. マルコによる福音書が啓示しているのは、主イエスの生きた生活が完全に神の新約エコノミーにしたがっており、神の新約エコノミーのためであったということです。
- B. 最初の神・人の拡張、拡大、複製、継続として、わたしたちは彼が生きたのと同じような生活をすべきです——I ヨハネ 2:6 :
1. 主の神・人の生活は、わたしたちの神・人の生活の模範を打ち立てました。それは、十字架につけられて生き、神が人性において表現されるようにすることです——ガラテヤ 2:20。
 2. わたしたちは自分自身を否み、キリストの死に同形化され、彼の霊の満ちあふれる供給によって彼を大きく表現する必要があります——マタイ 16:24. ピリピ 3:10. 1:19-21 前半。
 3. わたしたちは自己修養を拒絶し、天然の人を建て上げることを罪定めしなければなりません。わたしたちが認識する必要があるのは、クリスチャンの美德が本質的に神聖な命と、神聖な性質と、神ご自身と関係があるということです——ガラテヤ 5:22-23。
 4. 神・人の生活をした方は、今やその霊であり、わたしたちの中で、わたしたちを通して生きています。わたしたちは、この方以外のどんなものにも満たされたり、占有されたりすべきではありません——II コリント 3:17. 13:5. エペソ 3:16-19。
 5. わたしたちは自分の全存在を主に開いて（霊の中で、また祈りの雰囲気の中で）、ルカ第 6 章 36 節における、わたしたちに対する彼の命令を受け入れる必要があります。すなわち、「あなたがたの父があわれみに満ちておられるように、あわれみに満ちていなさい」。わたしたちは毎朝、あわれみ深い方としての主と接触する必要があります——哀 3:22-23. ローマ 9:15 とフットノート 2. 出 34:6. 詩 103:8. ルカ 1:78-79. 10:25-37. ローマ 12:1。

III. 主は、五つのパンと二匹の魚をもって五千人を養う奇跡を行なうことにおいて、弟子たちを訓練して、彼から学ばせました——マタイ 14:14-21. 11:28-30 :

- A. マタイ第 14 章 19 節は、主が五つのパンと二匹の魚を取り、それらを祝福しようとしていた時、天を見上げたと言っています :
1. 「天を見上げて」は、彼がご自身の源を、すなわち、天の御父を見上げていたことを示しています :
 - a. これが示しているのは、主が祝福の源ではないことを、主が認識していたということです。遣わされた方ではなく、遣わす方である御父が、祝福の源であるべきです——参照、ローマ 11:36。
 - b. わたしたちはどれほど行なうことができても、あるいは何を行なうべきかをどれほど知っていても、わたしたちが行なっていることを、遣わす方に祝福していただく必要があることを認識しなければなりません。それによ

ってわたしたちは、自分自身ではなく彼に信頼することによって、供給の経路となることができます——参照、マタイ 14:19 後半、民 6:22-27。

2. 彼が天の御父を見上げたことが示していたのは、彼が天の御父によって遣わされた地上にいる御子として、御父と一であり、御父に信頼していたということです——ヨハネ 10:30 :
ヨハネ 10:30 わたしと父は一である」。
 - a. わたしたちが知っている事や行なうことができる事は何の意味もありません。主と一であり、主に信頼することが、わたしたちの務めにおいてすべてを意味します——参照、I コリント 2:3-4。
 - b. 祝福は、わたしたちが主と一であり、彼に信頼することによってのみ臨みます——参照、II コリント 1:8-9。
 3. 主はご自身から何も行ないませんでした——ヨハネ 5:19. 参照、マタイ 16:24 :
 - a. わたしたちは自分自身を否むべきであり、自分自身からは何も行なおうとすべきではなく、主からあらゆることを行なおうとすべきです。
 - b. わたしたちはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、継続的に霊を活用し、自己を拒絶して、別の命によって生きる必要があります——ピリピ 1:19-21 前半。
 4. 主は、ご自身の意志を求めたのではなく、彼を遣わされた方のみこころを求めました——ヨハネ 5:30 後半、6:38、マタイ 26:39, 42 :
 - a. 主はご自身の考え、意図、目的を拒絶しました。
 - b. わたしたちはみな、この一つの事を警戒すべきです。すなわち、わたしたちは遣わされてある働きを行なうとき、その機会をとらえて自分自身の目標を求めるべきではありません。わたしたちはただ出て行って、わたしたちを遣わす主の考え、目的、目標、ゴール、意図を求めるべきです——参照、I テモテ 5:2 後半。
 5. 主は、ご自身の栄光を求めないで、彼を遣わした御父の栄光を求めました——ヨハネ 7:18、5:41. 参照、12:43 :
 - a. 野心を持つとは、自分の栄光を求めることです——参照、III ヨハネ 9 節。
 - b. わたしたちは働きにおいて、わたしたちの自己、わたしたちの目的、わたしたちの野心が三つの大きな破壊する「害虫」であることを見る必要があります。わたしたちはそれらを憎むことを学ばなければなりません。
- B. わたしたちは、常に主の回復の中で主のために用いられようとするなら、一人の新しい人のために、わたしたちの自己を否まなければならない、わたしたちの目的を拒絶しなければならない、わたしたちの野心を放棄しなければならない——マタイ 16:24。